

第3回浮体式洋上風力発電の海上施工等に関する官民フォーラム
(議事概要)

日時 令和6年8月29日(木) 13:10~14:00

場所 オンライン (teams)

1. 海上施工等に関する取組方針(案)について、事務局より説明を行った。

2. 意見交換において、以下のような議論があった。

- 海上施工シナリオの設定が今後のキーポイントである。浮体式洋上風力発電の実現に向けた国の本気度が民間企業に伝わるものと評価。課題解決に向けて進んでいくことを期待したい。
 - サプライチェーンを構築できるかが課題。浮体をスチールで造るのか、あるいはコンクリートで造るのか等でもシナリオは変わるはず。国の主導の下、WGで議論してもらいたい。
 - どの種類の作業船がいつどれだけ必要になるかを適切に判断できるかが課題であるが、船のオペレーターの育成もセットで検討する必要があるのではないかな。
 - 資料の各所に「最適化」という言葉が散りばめられている。これはコスト削減や大量急速施工が課題意識としてあることの反映と理解する。必ずしも従来のやり方にこだわらずに、海上施工シナリオを構築してもらいたい。
 - 浮体式洋上風力発電の海上施工等に関する課題や取組方針が網羅的に示されているように思う。国土交通省でよく調整して進めていってもらいたい。
 - コンクリート浮体の話が合ったが、サプライチェーンに関しては、地元産業育成という観点もあるだろう。
 - 浮体を係留するチェーンの形式等について、漁業との共生についても検討が必要。
 - 浮体式の施工のピークは2040年頃ではないかと思うが、その頃には、着床式の撤去や解体の作業も始まっているのではないかと思う。そのことを踏まえて、現実的な実行可能性を考慮する必要があるのではないかな。
 - 海外に頼るのではなく、国内で施工が完結するシステムを考えてもらいたい。国内にある今の製造体制で浮体を製造しきれぬのか、あるいは造船所は船も作らないといけぬのではないかな等といったことを早めに把握する必要があるのではないかな。
 - 海上施工シナリオの検討にあたり、電源ケーブルの敷設についても考慮する必要があるのではないかな。
- ⇒(事務局) 施工シナリオの議論にあたっては、どこまでの内容をターゲットとした検討を行うのか、整理したい。

○基地港湾に必要なスペックを考える際に、理想的にはかなり規模の大きなものになるだろうが、現実的には機能の幅を持たせて、港湾管理者が意欲的にになれるようにすべきではないか。

⇒（事務局）基地港湾の詳細な議論は、施工シナリオを踏まえて取組方針②において議論を深めて参りたい。

○世界に通用するような革新的なシナリオ、斬新なアイデアとなるようにしてもらいたい。

○サプライチェーンの構築については様々な企業が関心を持っており、国内企業が参画可能なシナリオとしてもらいたい。

○本日紹介された ECOWIND に限らず、人材育成の取組をしている者との連携をよろしくお願いしたい。

⇒（事務局）サプライチェーンや人材育成の取組は重要であり、今回取組方針⑤として位置づけているところ。関係機関、組織と連携しつつ必要な対応をして参りたい。

○水中文化遺産の保護についても検討すべきではないか。

⇒（事務局）洋上風力発電の導入には多様な論点があり、関係省庁とも連携しながら様々な議論を進めている。特に本フォーラムは海上施工に着目したものであるが、必要な取組については引き続き関係省庁と連携し対応したい。

以上